



社会にフォーカス

Vol. 8



南極大陸～領土権主張の対立を越えて～

南極大陸は、世界のどの国の領土にも属さない唯一の大陸です。これは、1959年に締結された「南極条約」に基づくものです。南極条約の締約国は年々増え、2019年12月までに54か国となっています。

南極大陸は1820年頃に発見されました。南極大陸の存在が明らかになるにつれて、南極地域を探検した国や近隣の国が領土権を主張するようになりました。その一方で、科学者の間では、国際共同研究を実施しようという動きが活発となり、1882年に国際観測キャンペーン「国際極年」が始まりました。そして、これをきっかけに国際協力が促進され、南極をめぐる国際的な合意に向けた動きが本格化しました。その後、3回の国際極年を経て、1959年に日本、アメリカ、イギリス、ソ連などの12か国が南極条約を締結しました。南極条約の主な内容は次のとおりです。

◎ 領土権主張の凍結を基本原則とする。

- ・軍事基地の建設禁止
- ・南極地域の平和的利用
- ・科学的調査の自由
- ・国際協力の促進



南極条約の締結により、南極大陸は、領土権主張の対立という問題を越えて、国際協力の場となり、国際社会の関心も科学調査や環境問題へと移っていました。



領土問題の解決について子どもたちに考えさせる際に、南極大陸における事例を取り上げてみてはいかがでしょうか。様々な国が自由に、互いに協力し合って活動する南極大陸の事例は、領土問題解決の一つのモデルです。この事例を取り上げることで、子どもたちに、領土問題を通してこれからの国際協調の在り方について考えさせることができます！